

会 議 録

会議の名称	平成27年度 第1回 所沢市地域福祉推進委員会
開催日時	平成27年6月9日（火）10時00分 ～11時45分
開催場所	市役所高層棟6階 604会議室
出席者の氏名	中島修（委員長） 神武恭子（副委員長） 岡村淳子 岡村英雄 小野慎二 小原共子 鬼澤一壽 小室民也 坂口葉子 柴井せん 鈴木四季 広瀬正幸
欠席者の氏名	内田喜久男 木村良孝 村上洋二
説明者の職・氏名	
議 題	(1) 第2次所沢市地域福祉計画に基づく取り組みについて (2) 計画の進行管理について (3) 第4次地域福祉活動計画 in 所沢について (4) 「（仮称）所沢市子どもと福祉の未来館」の整備状況について (5) その他
会議資料	【配布資料】 資料1 施策体系に基づく取り組み 資料2 各課関連事業一覧表サンプル 資料3 第4次地域福祉活動計画 in 所沢 ところWITHプラン 〔当日配布〕 ・所沢市民活動見本市 資料 ・「（仮称）所沢市子どもと福祉の未来館」建設工事 工程表
担当部課名	福祉部 福祉総務課 地域福祉推進室 電話04（2998）9113 福祉部長 本橋 則子 福祉部次長 植村 里美 福祉総務課長 北田 裕司 福祉総務課主幹 斎藤 伸壽 福祉総務課副主幹 佐藤 尊之 福祉総務課主任 小古井 一樹 福祉総務課主事 鹿島 裕太

様式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
齋藤主幹	<p>1. 開 会</p> <p>開会を宣言した。</p>
中島委員長	<p>2. あいさつ</p> <p>市の「第2次地域福祉計画」と、所沢市社会福祉協議会（以下、所沢社協）の「第4次地域福祉活動計画 in 所沢 ところWITHプラン」（以下、「ところWITHプラン」）が完成し、両輪となって所沢市の地域福祉を推進していく態勢となった。また、来年度には「（仮称）所沢市こどもと福祉の未来館」（以下、「未来館」）のオープンも控えており、地域福祉を進める環境が整っていく。6年間の計画期間の中で、国の動きも見据えつつ、委員の皆さまから色々なアイデアをいただきながら進めていければと思うので、引き続きよろしくをお願いしたい。</p>
佐藤副主幹	<p>3. 議 題</p> <p>1. 第2次地域福祉計画に基づく取り組みについて</p> <p>事務局より、資料1に基づいて説明を行った。</p>
中島委員長	<p>では、重点施策について、アイデアを出していきたい。</p> <p>重点施策A「地域福祉活動の担い手となる人材の活動促進」では、様々な学習機会や、意欲を持って学ぶ人材が、地域での活動につながるようにできないかという視点から、市民活動支援センターで昨年度より開催している「市民活動見本市」というイベントを例に、考えていきたい。例えば、大学生の就職説明会のようなイメージで、ブースを回って、色々な活動の話を聞いてもらえるような機会を作れたらよいのではないかと。そして、その後の実際の地域での活動につながるように、考えられたらよい。委員の皆さまからアイデアをいただければと思う。</p>
広瀬委員	<p>説明のあった中で、「地域福祉の側から参加する」とはどのような意味か。様々な市民活動団体の中には、すでに地域福祉活動を行っている団体もあると思うが、どういったイメージで考えたらよいか。</p>
中島委員長	<p>確かに、「市民活動」という概念の中には広く様々な分野が含まれており、地域福祉と重なり合う部分があるが、それをあえて切り分ける必要はないと思っている。重なり合う中で、地域福祉と他の分野との接点をどう作っていくか。例えば、子育て支援や高齢者福祉、障害者福祉分野といった様々な分野とつながりを持って、それを地域福祉の活動につなげていきたい。</p> <p>また、重点施策B「地域福祉の拠点を通じた福祉情報の提供」では、所沢社協で養成</p>

	<p>している「地域福祉サポーター」を例として、身近なところにある様々な地域福祉の拠点を通じて、情報を伝えていくという役割を考えてみたい。</p>
<p>神武副委員長</p>	<p>重点施策Bに関しては、情報提供にとどまらず、さらに地域福祉サポーターの方々が各地域の情報を収集して、それを拠点に持ち帰って、全体で共有するという形ができれば、なお望ましい。一方通行ではなく、双方向の取り組みにできればよいと思う。</p>
<p>岡村(淳)委員</p>	<p>所沢社協では、地域福祉サポーターについては、養成講座を受講した方にフォローアップ研修を行うとともに、所沢社協主催のイベントへの参加などをしてもらっている。「ところWITHプラン」でも、地域福祉サポーターには地域のアンテナ役として情報を集めてもらったり、地域とのパイプ役としての役割を持たせたいと考えている。現在、13名の方に登録してもらっている。引き続き、養成も進めていく予定である。</p>
<p>中島委員長</p>	<p>関連して、昨今、民生委員の担う役割が大きくなっていると言われる中で、地域福祉サポーターのような方が、民生委員を応援する役割が必要ではないかとの声もある。このことについて、小原委員はどう思われるか。</p>
<p>小原委員</p>	<p>私の地域では、自治会や民生委員を中心に「支え合いネット」を組織し、日常の暮らしの中で、単身高齢者等への目配りをしている。そこでは、個人情報との兼ね合いで、活動が難しい面がある。現在は、民生委員OBの協力も得て活動をしている状況だが、地域福祉サポーターのようなボランティアの方にどこまでの役割を担っていただけるか、わからない部分もある。</p>
<p>中島委員長</p>	<p>活動の中で様々な課題もあるが、現状では、地域福祉の中で、民生委員の担う部分は非常に大きくなっている。所沢社協で養成している地域福祉サポーターは一つの例だが、このような地域力、地域の資源を集めて、協力して対応できる体制を取っていかればよい。</p>
<p>鬼澤委員</p>	<p>情報提供を進めるにあたっては、発信した情報が、受け手に届くのかどうかを考える必要がある。例えば、情報発信にICTを活用するにしても、情報を受け取る側がそれにアクセスできるのか。また、私は、以前より付き合いのある方が、実は自分の地区の民生委員だったということも、長い間わからなかった。重点施策Bの取り組みについては、情報を必要としている人に、必要な情報が届くのかという観点からも考えていかねばならない。</p>
<p>中島委員長</p>	<p>民生委員名簿について、所沢市では、全民生委員の一覧を市の広報に載せていた時期もあったが、現在はどのようになっているか。</p>
<p>北田課長</p>	<p>平成19年の一斉改選の時から、広報には掲載していない。民生委員の活動は、それ</p>

	<p>それぞれの担当地区に限られた範囲での活動であり、全委員の氏名、住所、電話番号を広報に掲載し、市民に公開する必要性は薄いのではないかという議論もあって、やり方を変えた経緯がある。現在は、問い合わせがあれば、担当地区の民生委員の情報を提供している。</p>
中島委員長	<p>個人情報に配慮した運用をする一方で、市民の方へも、誰が担当の民生委員なのかが共有されていないというのは悩ましい部分であり、現在の地域福祉活動の難しさを表している部分でもある。</p>
岡村(淳)委員	<p>地区によっては、担当の民生委員が分かるように、各戸に配布しているところもあると聞いている。</p>
鬼澤委員	<p>個人情報に配慮するにしても、身近な地区の住民ですら、担当の民生委員が誰だか分からないというのはいかがなものかと思う。</p>
柴井委員	<p>私の地区で、平成25年の改選で民生委員になられた方は、各戸を訪問し、名刺を配って歩いていらした。</p>
小原委員	<p>以前に情報を悪用されたことがあったため、個人情報をより慎重に取り扱おうという方向になり、広報への掲載は取りやめたという経緯があった。</p>
中島委員長	<p>確かに、こここのところ、個人情報については広く公開することを控える方向になっていたが、東日本大震災を契機として、情報を出さないことへの問題点も指摘されるようになってきている。地域福祉サポーターについても、個人情報への配慮は必要になるが、ご本人の了解を得た上で出していくという方法もある。</p>
小室委員	<p>私の地域では、自治会の会報に、地区ごとの民生委員を載せている。できれば、あまり個人情報に過敏になり過ぎない方がよいと思う。地域の方が、担当の民生委員の電話番号すら知らないのでは、制度として機能しないのではないかと。有効に使えば、個人情報保護法にも抵触しないと思う。</p>
中島委員長	<p>情報をどのように共有するかという面で課題はあるが、できるだけオープンにする方向が望まれる。</p>
小野委員	<p>私は高齢者みまもり相談員として活動しているが、訪問先のお宅では、情報を伝える役割も担っている。同じように、地域包括支援センターなどからも、情報が伝わっている。しかし、仕組みとして、訪問を希望される方のところにはしか行くことはないの、それ以外の方に対しては、情報を伝える役割を担うことはできない。そのような方に対しては、誰かが行かない限り、情報が伝わらない状況がある。例えば、高齢者の方は、</p>

	<p>パンフレットが配布されたとしても、口頭で説明を加えないと内容まではなかなか伝わるものではない。民生委員の方の担っている役割は広く、そのような役割まで考えると、とても今の人数ではカバーできないと思う。しかしながら、やはり、地域の中で末端まで行き届く役割を担えるのは民生委員しかいない。地域福祉サポーターが民生委員をサポートするというのも一つの方法であり、何かしらの民生委員をサポートするという形が必要ではないか。</p>
中島委員長	<p>できれば、色々な情報が市民の人に届くように、民生委員の負担の軽減も図りながら、やり方を考えていけたらと思う。民生委員の情報については、基本的には、自分の担当地区の民生委員がどなたかということは、市民の方にわかるようになってくれればと思う。</p>
小原委員	<p>現状では、自治会によって考え方が違う面もあり、統一を図るのは難しい。私の地区でも自治会の回覧に載せているが、全体で同じような方法が取れるかという点、そうとも言えない部分がある。</p>
中島委員長	<p>地域福祉を考える上では、民生委員の方に担っていただく役割が大きいですが、とはいえ、民生委員だけで全てを支えられるのかという点、そうではない。その意味でも、もっと色々な人材を育てていくこと、地域に情報を届けていく人のことも考えていかなければならない。また、情報が伝わる仕組みという点では、市でも出前講座のような仕組みを持っていると思うが、どのようなものかご紹介したい。</p>
北田課長	<p>市では、生涯学習推進センターの事業として、福祉分野も含めた各分野の出前講座メニューを用意している。10人以上のグループであれば、担当者が出向いてお話をさせていただいている。福祉の情報というのは、必要にならないと求められない側面もあるが、市としては、出前講座のような事業があること自体を、さらに発信していく必要があると考えている。</p>
中島委員長	<p>ありがとうございました。他にご意見はあるか。</p>
神武副委員長	<p>私は、NPOの活動で「地域活動支援センター ドゥークル」を開設し、八百屋やコミュニティカフェをやっている。そこでは、来てくれた方とお話しをする中で、困りごとがあれば、関係機関にも問い合わせ、どうしたらよいかを一緒に考えたり、また、チラシやパンフレットなどを配架するラックを設置し、地域の福祉情報を共有できるようにしている。地域福祉の拠点を考える上では、このような市民が運営している場所も、その一つとなっていることをお知らせしておきたい。</p>
中島委員長	<p>重点施策Bで「地域福祉の拠点」という中には、市民の方が取り組んでいるものも含め、色々な場所がある。また、市の出前講座も含め、すでに取り組んでいることは、市</p>

<p>柴井委員</p>	<p>民の方にぜひ知ってもらえるように、継続して周知していければと思う。他にはいかがか。</p> <p>重点施策Aの取り組みに関連して、一つお願いがある。例として挙げられた市民活動見本市のような取り組みは、市役所の市民ホールだけでなく、ぜひとも各地域でやってもらえたらと思う。私の住む三ヶ島地区では、市民活動支援センターのこともまだまだ知られていないように思う。先日、三ヶ島で初めての「健康まつり」というイベントがあり、高齢者の方も障害者の方もたくさんの方が集まってくれた。同じように、市全体向けに開催していたイベントなどを、各地区に分散して行うことも効果的だと思う。色々な情報を、地域の皆さまに広めていただければありがたい。</p>
<p>中島委員長</p>	<p>いくつかご意見をいただいたように、地域福祉の拠点となる場所や、地区ごとに持ち回り制で事業を行う等、今後も継続して様々なアイデアを出していきたい。いずれにしても、まずは市民の方に知ってもらうということが大事だと思う。</p> <p>続いて、重点施策C「地域福祉課題の解決に向けた推進体制の構築」へ移りたい。所沢社協では、この4月からコミュニティソーシャルワーカー（CSW）のモデル配置を始めた。取り組みが進んでいる東京都豊島区では、23名のCSWが配置されている。埼玉県内でも、川越市や久喜市では取り組みを始めており、所沢でも取りかかる段階になった。初めに、岡村(淳)委員から、モデル配置の状況をお聞かせ願いたい。</p>
<p>岡村(淳)委員</p>	<p>所沢社協では、平成27年4月から、所沢地区をモデル地区として設定し、CSWの取り組みを開始した。人員としては、それまで同地区の地域包括支援センターで4年間の経験のある職員を1名配置した。まだ2ヶ月余りが経過したところだが、いくつかの事例に対応する中で、どのようにしたらより早く発見できるだろうかと思案しているところである。いわゆる「制度の狭間」で、どこからも手が行き届いていない方に対し、関係機関との連携を図りながら、また、地域福祉サポーターや民生委員、地区担当職員、高齢者みまもり相談員など、様々な役割を持つ人たちがつながる機能が大事だと感じている。</p>
<p>中島委員長</p>	<p>このモデル地区における取り組みで成果を上げることで、CSWの必要性が認められれば、結果として他の地域への配置も進んでいくものと思う。しかしながら、これはすぐに成果の出るものではなく、時間をかけて取り組んでいく必要がある。今後の進捗を見守っていただけたらと思う。また、重点施策Cでは、併せて庁内の横断的な取り組みが必要ということで、計画に盛り込んだ。事務局と連携して、これから庁内の職員向けの研修会なども企画して、庁内の横のつながりを深めていきたいと考えている。</p>
<p>鬼澤委員</p>	<p>ここまで、民生委員や地域福祉サポーター、CSWなど、様々な役割を担い、地域で活動する方々が挙げられたが、サービスを受ける側にとってみれば、制度が複雑化してしまうことは、分かりにくさにつながるように思う。もっと単純化した方がよいのでは</p>

<p>中島委員長</p>	<p>ないか。</p> <p>今、頑張っている人を支える仕組みを作ろう、という視点で捉えてみたらどうだろうか。地域で色々な人が役割を分担し、支え合う。そのためには、各制度をつなぐ人材も必要になる。言葉のわかりにくさという点については、計画の中に用語説明を加えたが、丁寧に、継続して説明していく必要がある。</p>
<p>鬼澤委員</p>	<p>皆で支え合うということは理解できるが、一方で、受け手の側からすると、例えば、何かがあった時に、誰にまず相談すればいいのかが分かりづらくなってしまっているのではないか。</p>
<p>中島委員長</p>	<p>分かりやすさという観点では、確かに市民の方に仕組みを分かりやすく伝える存在は必要である。一方で、地域福祉の視点では、例えば市役所だけで全ての役割を担うというわけにはいかない。地域の中で様々な役割を分かち合う中で、それぞれが担っていく仕組みが求められる。</p>
<p>鬼澤委員</p>	<p>そのように役割分担を図るとなると、あるケースにおいて、誰が主に責任を持ってその対象者を見ていくと考えたらいいのか。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>例えば、色々な問題を抱えている人が、まずどこに相談したらいいかわからないという状況を、選択肢がたくさんあると捉えて、色々な役割分担の中で、連携を図っていく。複数の問題がある中で、多職種連携と言われるように、様々な役割を持つ関係機関など、地域へとつないでいく。そのように、地域の中で情報を共有し、全体で把握しながら全体で責任を担っていくという方向が、地域福祉という面では望ましいと思う。</p>
<p>中島委員長</p>	<p>今、地域の問題が見えにくくなっていると言われており、市役所をはじめとする公的機関だけでは、なかなか発見しづらい状況がある。そうした中で、民生委員やボランティアの方など、色々な方が色々な機会をとらえて気づき、発見し、それが公的機関にもつながり、さらには支援へとつながっていく。制度ごとに考えれば、責任を持つ機関はそれぞれにあるが、まずは、発見をしやすくしていこうという点で認識を共有できればと思う。他にご意見はあるか。</p>
<p>岡村(英)委員</p>	<p>全体としての重点施策を考えていくにあたっては、第2次地域福祉計画において設定した各圏域を意識して、それぞれの担う役割を踏まえながら、進めていく必要があると思う。</p>
<p>中島委員長</p>	<p>所沢市の圏域としては、11の行政区ごとにまちづくりセンターを設置し、取り組みを進めている。他方では、地域包括支援センターごとの14区域との連携も意識しながら考えていければよい。ともすれば忘れがちな視点かもしれないが、取り組みを考える</p>

	<p>にあたっては、圏域を意識しながら考えるべきというご意見をいただいた。他にはいかがか。</p>
神武副委員長	<p>重点施策の取り組み案については、具体的に、社協が何をするかは見えやすいが、それ以外に、どこがどのように取り組むのかが明確ではないように思える。</p>
中島委員長	<p>このような重点施策を具体的に実現していくにあたっての、事務局としての関わり方はどのように考えているか。</p>
佐藤副主幹	<p>重点施策Aを例にすると、市民活動支援センターと連携を図る部分などは、現在の組織では福祉総務課が窓口となってやっていく必要がある。また、福祉のボランティアのことなども、所沢社協との間に立って、連携しながら地域福祉の仕組みを活用していく必要があると考えている。</p>
中島委員長	<p>議論は尽きないが、ここで次の議題2に移りたい。計画の進行管理について考える中で、具体的な取り組みをどのように進めていくかも、関連して話せたらと思う。</p>
	<p><u>2. 計画の進行管理について</u></p>
佐藤副主幹	<p>事務局より、資料2に基づいて説明を行った。</p>
中島委員長	<p>進行管理の状況をできるだけ公開していくという姿勢は大事である。また、市の施策としての評価に加えて、地域との協働で地域福祉計画を進めていく中で、市民の方や、所沢社協、NPOなどの取り組みをどのように量っていくべきか。委員の皆さまからアイデアをいただけたらと思う。</p>
鬼澤委員	<p>資料2の中では、ボランティア地域介護支援事業として、お達者倶楽部を3年後には70、6年後には85に増やすとの目標値が掲げられている。現実的には、こうして伸ばしていくことは可能なのか。</p>
北田課長	<p>資料ではサンプルとしてお示ししている。市の施策には予算の制約などもあるが、福祉の施策としては、それを進める中で必要性が認められれば、工夫もしつつ進めていきたいと考えている。</p>
鬼澤委員	<p>例えば、このような予防的な取り組みを進めれば、今の介護保険支出を減らせるという視点もある。</p>
中島委員長	<p>6年間のスパンで考えると、お達者倶楽部については、介護保険の地域支援事業の枠組みの中で支出できるようになると、目標が達成しやすくなる。いずれにしても、各個</p>

	<p>別計画に基づき、各担当課において取り組みを進める中で、地域福祉の側からの進行管理をしていければと思う。</p>
小室委員	<p>今の例で考えると、お達者倶楽部では、お茶会や食事会などを通じて和やかに過ごす場を提供されているものかと思うが、その数を増やしていくことには、それ自体として意味があるが、増えたことによって何がどうなったのかということをつまないと、その先の何をどうしていくかということ量を測れないように思う。</p>
中島委員長	<p>事業ごとの達成度合いは数字で見ることができても、それだけをもって介護予防の効果がどれだけ上がったかとなると、評価が難しい部分がある。</p>
坂口委員	<p>お達者倶楽部事業に関連して申し上げますと、今は所沢社協などで地域サロン活動に対する助成はされているが、高齢者人口がどんどん増えていく中で、それぞれの活動自体は、今もギリギリのところで行っている状況である。一方で、このような活動は、地域での見守りという視点では、一か所に集まってもらう中で、顔が見える形での見守りができるという特徴もある。地域では自主活動グループなども作られており、お茶会やお食事会だけではなく、体操教室やウォーキングなど、様々な取り組みも始まっている。</p>
中島委員長	<p>例えば、このボランティア地域介護支援事業については、高齢者支援課で進めるものだが、地域福祉との関連は深い。各分野の取り組みを共有しながら、今後どのように国の制度が動いていくかも視野に入れ、進捗を確認していきたい。国では、これまでの介護予防事業の枠組みの中で、二次予防における成果が不十分との認識もあり、地域サロンやお達者倶楽部など、一般介護予防を充実させていく方向にシフトしてきている。</p> <p>計画の進行管理においては、丁寧に、テーマを設けて評価していくという方法もある。本日の資料は、各課関連事業一覧表のサンプルという形で提示されたものだが、これまでは、所沢社協の事業をここに追加して評価していくという形は取っていたのか。</p>
佐藤副主幹	<p>第1次地域福祉計画の進行管理においては、庁内の事業に限られていた。</p>
中島委員長	<p>第2次地域福祉計画においては、各施策の進捗を量る上では、連携して地域福祉の推進を図っていく所沢社協の事業についても指標として載せており、その進捗を継続して確認していく必要がある。また、このような一覧表の中では、数値として、例えば市民活動の登録団体の数は出せたとしても、その推移による市民活動自体の伸びをどのように評価していくのかという視点も必要になる。</p>
佐藤副主幹	<p>確かに、生涯学習人材バンク事業の登録者件数や、市民活動の登録団体数なども、市の事業としてこのようなリストには掲載する一方で、各所属において、それぞれに目標を設定して取り組みを進めていく中で、地域福祉としての進捗をどのように捉えるかは、課題の一つと考えている。</p>

中島委員長	<p>地域福祉の側としては、できるだけ幅広く情報提供いただきながら、進捗を確認していければと思う。例えば、危機管理課の災害時要援護者支援事業にしても、避難行動要支援者名簿の整備や、要支援者に対する地域の避難支援等関係者の役割など、様々な側面がある。数値も提示いただく中で、状況を共有し、どのようにして具体的な支え合いにつながっているのかを見ていければと思う。全体の方向性としては、これまでの範囲を少し広げて、市の施策だけではなく、所沢社協や各団体の活動状況なども、データを集めながら紹介いただければいいかと思う。</p>
佐藤副主幹	<p>計画の中では、所沢社協の事業も指標に掲げていることから、それらも含める形で、基本的には、今回サンプルとして配布したような形でまとめさせていただき、今後、委員の皆さまにご覧いただく中で、お気づきの点など、ご意見をいただければと思う。</p>
中島委員長	<p>議題1で議論した重点施策だけではなく、計画の施策体系に沿った、全体としての進み具合もこの委員会で見ていくことになるので、引き続きご協力をお願いしたい。</p> <p>続いて、議題3に移りたい。所沢社協で策定した「ところWITHプラン」の内容について、まずは岡村(淳)委員からご説明いただきたい。</p>
岡村(淳)委員	<p><u>3. 第4次地域福祉活動計画 in 所沢について</u></p> <p>この計画は、市の第2次地域福祉計画と同じく、平成27年度から32年度までの6年間の計画とし、基本理念である「市民が一緒につくる！健やかに自分らしく暮らせる 支え合う 心やさしいまち」は第3次地域福祉活動計画を踏襲している。4ページに記載したように、第2次地域福祉計画と連携して、所沢市の地域福祉の推進に取り組む関係にある。</p> <p>7・8ページには、見開きで計画の体系図を載せている。4つの基本目標のもとに8つの実施計画を設定し、それぞれにつき2つずつ、全16の具体的な取り組みを掲げている。「ふくし掲示板の設置の推進」や「地域福祉サポーターの育成と活動の強化」、「CSWの配置」などは第2次地域福祉計画の指標にもなっており、お互いに連携を深めながら取り組んでいきたいと考えている。</p> <p>9ページからは、計画の体系に沿った具体的な取り組みとして、ページ下部に例示を載せ、取り組みやすい活動から取り組んでいただけるようにと考えている。地域福祉の進行管理にはなかなか市民の方に見えにくいところもあると思うが、圏域ごとにタウンミーティングなども行いながら、進めていきたい。</p>
中島委員長	<p>只今の説明について、何かご質問等はあるか。</p>
小野委員	<p>9ページの「地域・市民の協働のかたち こんなことから、はじめてみよう」の中に、</p>

	<p>「地域福祉の担い手として、自らの知識や経験を活かしボランティア活動に参加する」とあるが、この表現には違和感がある。例えば、以前にメガバンクに勤めており、企業育成や企業再生に取り組んでいたとしても、その知識や経験を活かせることが無いと感じている。同じように、サラリーマンの方、メーカーで何かモノ作りをしていた人などが、ボランティア活動をやってみたいと思っても、自分の知識や経験を活かさないと感じてしまい、何をどうしたらよいかわからなくなって、その結果、尻込みしてしまうことにもなるのではないかと。高齢者大学や市民大学など、自分の生きがいを求めて色々やっている方もいて、そういった方々を地域福祉の活動へつなげていくことは大事だが、ボランティアなどの活動を始めるきっかけとして、知識や経験が必ずしも活かされてはならず、ハードルが高くなってしまっているように感じている。</p>
中島委員長	<p>地域の中には、様々な経験を積んできた方々がいる。地域活動に活かしていただける部分はたくさんあると思うが、取り組みやすいようにとの意図で使っている言葉の中に、ハードルを高くしている部分があるとすれば、工夫が必要になる。</p>
坂口委員	<p>三ヶ島地区でも、なかなかボランティアが増えていかないという悩みがある。柴井委員からもご意見があったが、色々な取り組みを、できる地域からでよいので、各地域でやってもらうことが大事なのではないか。そして、まずは地域でこういう活動をやっていると知ってもらうことで、これだったらできるかもしれないので一度参加してみようか、あるいは、自分にできそうな活動を立ち上げてみようかといったような、きっかけにもなると思う。また、重点施策の取り組みにも関連して、地域福祉サポーターの方を中心に、見本市に関わってもらうことも効果的ではないか。活動の情報が地域福祉サポーターの方を通じて地域の方に伝わり、市民活動がこういうことだと見えてくれば、自分でもこれだったらできそうかな、といったことにもつながると思う。</p>
中島委員長	<p>ありがとうございました。先日、全国老人クラブ連合会で講演させていただく機会があった。そこでも感じたことだが、お年寄りの方は、歩いて行ける距離での活動に強みがある。これからの地域包括ケアシステムの構築や、地域福祉の推進のことを考えると、そういった身近な範囲での活動が大事であり、地域に入っていくこと、地域に根差した活動というものが、より大切になってくる。</p> <p>所沢社協の「ところWITHプラン」については、市の第2次地域福祉計画と両輪となって地域福祉を推進していくものであり、お互いに進捗状況も共有しながら取り組みを進めていければと思う。では、議題4へ移りたい。</p>
佐藤副主幹	<p>4. 「(仮称) 所沢市子どもと福祉の未来館」の整備状況について 事務局より、工程管理表を引用しながら説明を行った。</p>
中島委員長	<p>只今の説明に関して、ご質問などはあるか。</p>

委員一同	特になし
中島委員長	<p>「未来館」については、地域福祉の中心的な役割を担う拠点施設として、平成28年11月の完成を目指しているとのことなので、今後も継続して状況をお知らせいただければと思う。では、議題5の「その他」について、事務局から何かあるか。</p>
佐藤副主幹	<p><u>5. その他</u></p> <p>7月18日（土）に「平成27年度所沢市地域福祉市民フォーラム」を開催し、中島委員長と、所沢社協の地域福祉活動推進会議の委員長である、早稲田大学の田中英樹教授とともに、神武副委員長、小原委員、岡村(淳)委員にもご登壇いただく予定である。委員の皆さまにおかれては、もしご都合が許せば、ぜひご来場いただきたい。また、それぞれの所属されている団体や、周りの方々にもぜひお声かけいただき、たくさんのご参加が得られればと考えているので、ご協力をお願いしたい。</p> <p>また、次回の委員会については、10月から11月頃の開催を見込んでいる。日程については、議題も含めて委員長と調整の上、なるべく早めにお知らせしたい。</p>
中島委員長	<p>ありがとうございました。本日は、委員の皆さまから色々なアイデアをいただいたので、これを材料にして、計画に基づいた取り組みを進めていければと思う。</p> <p>では、本日の議題については全て終えたので、事務局にお返しする。</p>
斎藤主幹	<p>4. 閉 会</p> <p>閉会を宣言した。</p>